

治山事業の目的・効果をPR (九州森林管理局)



設置した木製 PR 看板

このたび、九州森林管理局大分森林管理署では、由布岳北斜面の崩壊地が一望できる大分自動車道由布岳パーキングエリア内(上下線)に治山事業の目的や効果等を広くPRするために由布岳治山工事を解説する木製の大型看板を設置しました。

由布岳パーキングから見える由布岳は、大分県由布市にある標高1,583mの活火山で、豊後富士とも言われ毎年多くの登山客が訪れる風光明媚な山です。

また、麓には温泉地で有名な由布院温泉があり、1年を通して多くの観光客が訪れる場所でもあります。

一方、由布岳の北斜面においては、山頂付近から山腹にかけて約30haに及ぶ大規模な崩壊地が広がり、一転して険しい山岳地域の顔をのぞかせています。

これは、1596年の慶長豊後大地震とその後の大雨により発生したと伝えられており、度々土砂が流出し下流域に土砂災害をもたらしてきました。

このため大正4年から治山事業に着手し、現在も治山施設の整備を進めているところです。

この崩壊地には次の特徴があります。

① 地質は角閃安山岩を基岩とし、亀裂が多く脆弱であり、風雨等により絶えず大量の土砂が生産されていること。



由布岳治山施設

② 標高900m以上の溪床は、縦浸食が激しく極端なV字谷を形成しており、治山ダム等の施工が困難であること。

③ 傾斜が50〜80度と急傾斜地であり山腹工の施工が困難であること。

④ 源頭部の標高は1,500mと高く凍結融解作用を繰り返して表面の表土が絶えず移動することから植生導入による復旧が困難であること。

このようなことから標高900mから下流において、治山事業を行っており、上流部国有林を大分署、下流部を大分県がそれぞれ連携して治山ダムや導流堤等の治山施設を整備してきました。

最近では、平成24年7月の九州北部豪雨や平成28年4月の熊本地震による崩壊で大量の土砂が発生しましたが、これまで整備してきた治山施設により土砂を受け止め、下流の由布市塚原集落への流出を防止しました。

今後とも、九州森林管理局と大分県が連携を密にして治山対策を継続的に進めていくこととしています。